

「学ぶ力」	
実 態	課 題
◇令和 7 年度の共通指標より、「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている」が 81.9%、「自分で決めたことはやり遂げるようにしている」が 85.4%、「振り返ったことを、次に生かそうとしている」が 83.1%と、自ら考え自ら学ぶとする姿勢や、振り返りを生かそうとする姿勢など、学び方の素地は身に付きつつあることが伺える。	◇令和 7 年度の共通指標より、「自分の意見を進んで発言しようとしている」が 72.8%、「自分で計画を立てて勉強している。」が 70.5%と、他の項目に比べて肯定的な意見の割合が低い。自分の考えを素直に表現することのできる安心感のある学級風土づくりを進め、自己選択や自己決定など子ども一人一人が自らの学びを進めていけるように課題探究の過程をより大切にしていける。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇令和 7 年度の共通指標から、「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている」が 85.0%、「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている」が 87.0%、「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の意見を見直すことがある」が 87.4%と、これまでも力を入れて取り組んできた「響きあい・かかわり合い・認め合う」姿が定着しつつあることが伺える。一方で、「自分が必要とされていると感じる。」が 72.8%であり、自己有用感が高まるような子ども同士の相互承認の場や自己肯定感が高まるような教師の価値付けを大切にしていける。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
『聴きたい』が生まれる学びの創造 ～響き合い、一人ひとりの学びが深まる授業づくりを通して～	
課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
(1) 校内研修の充実 →校内研修の時間を昨年度よりも充実させた。児童アンケートや実態から目指す子ども像の共通理解を図り、日々の実践や一人一実践の公開授業から研究主題や副主題の実現に迫っていく。 (2) AARサイクルの視点での授業改善 →学びの見通しをもち、自ら学びを進め、自分の成長や日常生活や社会とのつながりを実感できるように、単元や題材、1時間の授業を構成していく。 (3) 直接体験の場の充実 →校外学習や出前授業、地域教材や地域のボランティアの活用により、社会に生きて働く「本物の経験」を体得できるようにする。	①縦割り活動である「森のグループ活動」を生かし、それぞれの学年に応じた「ねらい」を大切にし、その「ねらい」に向かって自分自身がどのように行動するかを決められるよう指導していく。4～6年生はグループリーダーとして、活動の計画や運営を自分たちの力でやり遂げられるよう、教師が支援していく。1～3年生はグループの一員として、他の学年とどのように関わるとより良い活動になるのかを意識できるよう指導していく。 ②子どもたちが、自分たちで企画した活動やその成果などを発信できるように、全校朝会や学年朝会、朝の会などに場を設定する。
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
◇課題探究的な学習の推進や自治的な活動の充実に向けて、複数のツールの中から適当なものを、児童が自ら選択できるように環境を整備する。 ◇各ツールの利点などの特色について校内研修で共有し、児童が有効に活用できるようにしていく。 ◇「総合的な学習の時間」や「生活科」において、情報モラル教育を系統立てて行い、児童が適切に ICT を活用できるようにする。 ◇パートナー校と交流を行い、連携して取り組んでいく。	

<本プログラムの実行に向けて>

新年度	【一人一人の教職員】	【学校全体】	次年度へ
◇本プログラムの共有 ・職員会議（5月） ・ホームページ掲載（5月） ・小中一貫実務担当者会議（6月）	◇教材研究・日常の授業改善 ◇各自の研修…札幌研・年次研修 ◇校内研究または小中合同研修会における一人一実践の公開	◇職員会議や研究全体会で成果と課題を共有 ◇教科担任制の実施 ◇学年経営交流会や学びの支援全体会での児童の実態交流	◇札幌市の共通指標、学校評価（児童・保護者アンケート）を生かした振り返り ◇育成プログラムの見直し ◇研究全体会（2月）

